

それは 瞬間芸！ 珠玉の乳幼児の診察法

# 項部硬直のみかた

「高い熱が出た」、「頭痛を訴えます・機嫌が悪い」、「吐きました」の訴えは、乳幼児～学童の診療では定番的症状群です。三つが揃うことも再々です。

**〔発熱＋頭痛(不機嫌)＋嘔吐〕 ⇔ 髄膜炎！**

髄膜炎であるかどうかは、実は、対座して間もない時点で、病状を確認する前に否定していることが多いのです。 ？何 ？何故？！

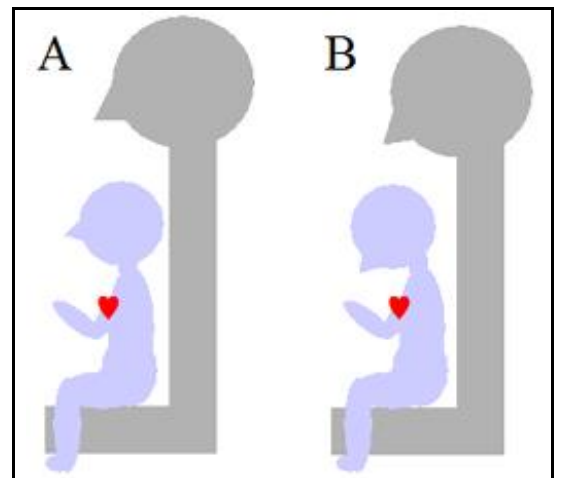
※ 「診察室に迎え入れる時点で診察が始まる」～ 格言と言えます。

※ 子どもの診察も同様です。大人と異なり、緊張し易い子ども、とくに、乳幼児においては、保護者との関係が重要になります。

※ 入室時、笑顔で迎え、保護者に図 A の姿勢

保持を促します。例えば、服に♥があると

「ア！かわいいナ！」と指さします。通常、子ども・保護者は、服の模様を見ます。この瞬間に“項部硬直：陰性”の診断をします。



※ Workshop では、環境・参加者の関係性を和

やかにする手法（Ice Break）が最初に行われます。子どもの診察でも重要です。一人で座る幼児・学童では、胸にプリントされている絵柄・文字を指さして、雰囲気をやかにすると共に、重要な診察所見を得ているのです。

生活者の幸せを担う地域医療の実践を誇りとして

国民健康保険智頭病院

〒689-1402 鳥取県智頭町 TEL.0858-75-3211

研修で来院する学生向け資料です。

鳥取県国保地域医療学会でも使いました。

第 31 回鳥取県小児保健協会 研修会

「過疎地病院における小児医療の実践」

配布資料 = 6 =